

注意報第3号

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成18年度病虫害発生予察注意報第3号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第3号を発表したので送付します。

茶

- 1 病虫害名：もち病
- 2 発生地域：県下全域（特に中山間地域）
- 3 発生予想：多い
- 4 注意報の根拠
 - (1) 6月2半旬の定点調査結果は、発病葉数及び発生ほ場率ともに高く、特に中山間地域での発生が多い。
発病葉数（1㎡当たり） 2.6葉（平年 0.3葉、前年 0.1葉）
発生ほ場率 26.1%（前7か年平均 4.8%、前年 6.3%）
 - (2) 福岡管区气象台6月2日付1ヶ月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温、降水量は平年並と予想されている。
今後、降雨が続くと発生が助長され、多発する恐れがある。
- 5 防除上の注意
 - (1) 病斑上に形成された担子胞子が風雨で飛散し、二番茶の新芽に感染する。病原菌の発育最適温度は16～20℃で、降雨が多く多湿の時に感染し発病しやすい。
 - (2) 二番茶の萌芽から1葉期までの防除が最も効果が高いことから、萌芽期から開葉1葉期までに防除を行う。ただし、常発園と多発が予想される園では、萌芽期と更にその1週間後を目安に防除を行う。
 - (3) 防除に当たっては、農薬使用基準（適用農薬、処理濃度、使用時期・回数）を遵守するとともに、極力、風のない時に実施する等、周辺作物への飛散防止に努める。
 - (4) 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。